共に運び去られること（以上大野氏），又 *C. rufulum* や之と近似の *Chiracanthium* の卵に小さな寄生蠅のあること等が知られてゐるが，之等については未だ充分な發表が行はれてゐない。

〔附記〕 *H. iwatai* の和名は從來決定されてゐなかつたが，今回安松京三氏は筆者の乞を容れられて，Iwata-tutu-bekkōbati イワタツツベツカフバチの新稱を與へて下さつた。今後此の名を用ひることにし度いと思ふ。

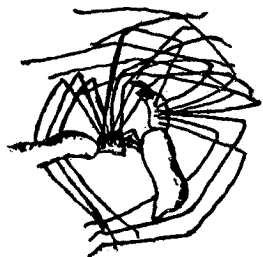
---

# タイリクユウレイグモの交尾と産卵

金　山　滿　吉

（咸興師範學校五年）

暑い夏の太陽が照り續く七月の下旬から八月中旬にかけて，タイリクユウレイグモの交尾の最も盛な時である。（本文に入る前に此の報告は北鮮を中心とし僅かに十一組の結婚者を代表として平均したこと，及び今年は割合に天候が惡くて例年に比べて少し交尾の時季が遲かつたことを斷つて置きます）。一箇月前から降り續いた長雨は今日やつと止んで，蛙も鳴き飽きたやうにしづんでゐる。例の通り室内は暗い。何か珍しい事はないかと思つて天井から隅々のタイリクユウレイグモの巢を檢査することにした。時は七月二十五日午前八時三十七分。天井の片隅に氣が狂つたやうに追ひ廻る二匹のタイリクユウレイグモがゐる。何をするかと見てゐる中に結婚の契を結んだのである。約五十分にして交尾はすんだ。今度は部屋の隅の所にまるで猫と犬が睨み合つてゐるやうに♂♀二匹が三十糎程の距離を距てゝ待機の姿勢をとつてゐる。此處は僅かに五，六本の糸しか張つてゐない♀の領地である。十時二分愈々行動開始だ。♂は第二脚で何かを探すやうに振り廻しながら靜かに糸にそつて步き出す。約五，六糎の所まで近づくと♀は逃げようとする。其の時♂はいきなり♀に飛び着いて一體になつたかと思ふと♀は巧に逃れて二十糎程離れて止る。♂は失敗して其の場に靜止すること二分にして再び行動開始。今度は意外にも♀は♂を待つやうに靜止したまゝで愈々近づくと♂♀とも言合つたやうに飛び着いて離れず，

其の姿勢は♀體と♂體は稍々直角をなし長い脚で巧に抱き合つてゐる。僅か

交尾の姿勢

五，六本の糸が二匹の體をさゝへてゐるので少しでも動くとゆらゆらとゆれる。交尾始まつて十分の後及び十九分後，二十二分後，三十二分後，三十五分後には♂が腹部を前後に振る如く二，三回動かす。二十四分後には♀が合圖をする如く第一脚を動かすと♂は力一ぱいに腹部を前後にすばらしい速さで四，五回振る。この勢で♂♀とも今の姿勢のまゝ左方五粍の所に移動，暫らくして三十分後には♂♀共一層強く抱き締める。三十六分後，四十分後にも同じ動作をなし，四十五分後には♀が第三脚を動かしても♂は依然として動かず，尙續いて♀は♂を強く抱き締める。すると♂は腹部を動かしてこれに應ずる。四十七分少し糸が搖れ始め四十八分には急に♂♀とも暴れ出し喧嘩をするやうに♀は力一ぱいに全身を振つて♂から離れ，五糎の所に止る。♂は其の場に止ること二分にして徐々に♀に近づき飛びかゝれど，♀は應じないで逃げる。♂はその場で元氣なささうに逃げた♀を暫らく見てゐたが，例の五六本の糸しか張つてゐない♀の領地にもどつて觸手を上下に動かし，時々その移精針を口でなめる。この時間約五分である。〔以下♀についてのみ〕一方♀は交尾が濟んでもへこたれず，尙元氣で巢を歩き廻り，時々壁に尻をつけて用便するやうなことをする。交尾前にはそれ程食餌をとらなかつたが交尾後は相當に多く食べる。これは産卵後の準備であらう。交尾が終ると少し腹部がふくれた感がある。二十六日の朝から夕方にかけて腹部は稍々茶色に透き通るやうで，然かも表面がぴんと張つてゐる。これからは每日一生懸命に食べることが唯一の仕事らしく，六日經つて愈々産卵の時期がやつて來た。八月一日午後二時十九分眞珠のやうな美しい小粒の卵を五十粒內外産んだ。それに要した時間は二分乃至七分。卵を産むのは餘程注意してゐないと見られないが，先づ一粒の卵を産んではこれに糸をつけて初めは吊すやうであるが，次第にこれを糸で包むやうに圓い塊にして口で暟へ吊してゐる。その形は本誌の Vol. VI, No. 2 (1941) の 51 頁にのつてゐる。卵は日を重ねるに從つて白色が濃くなり，八月十七日午前二時七分タイリクユウレイグモの名にふさわしくない可愛らしい子蜘蛛が糸包の中から生れるのであつ

た。尙母蜘蛛は白い脫殼を啣へること數分にして落すが，非常に痩てゐて——これから母蜘蛛は最初のやうに生活を繰返へすのである。脫皮の回數及び樣子は次に申上げることにして，最後に鑑定をして下さいました植村利夫先生に厚く御禮申上げる。

---

## オニグモ2種の報告

私は中學を出て東北帝大生物學教室に少しばかり居り現在仙臺鐵道局に勤務致しながら中學時代以來好きだつた蜘蛛の研究を續けて居る者である。去る9月7日家の近所を採集して數種を得，歸りに梅の木の側を通ると實にすばらしい丸網が張られて居る。何蜘蛛の住家だらうと其の網に近づいて見ると何處を見ても蜘蛛が居らない。居らないんだなと思つて網を强くゆすぶつて見た。其の時ウメノキゴケの如き塊が下に落ちたので何氣なくそれを注意して見ると落ちた塊が動き初めた。それで蜘蛛だといふことがはつきりとわかり早速採集し家に來てから調べて見ると正しく植村先生が Acta Arachnologica 第4卷第1號に本邦では朝鮮及本州中部以東で稀に採集せられる珍品であると書かれて居られたコケオニグモであつた。此の蜘蛛が宮城縣刈田郡地方に於て發見された事は特筆に値すると思ふのである。

我が國に於て樺太，北海道，本州北部及中部の高地に棲息して居るといはれるアカオニグモを宮城縣と山形縣に跨り聳ゆる藏王山の中腹早川牧場にて昨昭和15年8月と10月末頃に採集したのでアカオニグモは宮城縣にも居るといふことを報告して置きたい。齋藤博士は東北地方の蜘蛛類報告（1939年）に本種の產地として靑森縣（靑森市，弘前市，四和村？）を擧げて居られる。（平 間 富 夫）

---

# 東亞蜘蛛關係文獻目錄

### 第14輯（1941年度第3回）

18 加藤正世——石神井理科教材園自然觀察

昆蟲界第9卷第10號の全頁（pp. 493--612, 14 pls.）を潰して理科教材園自然觀察特輯號になさつたのは壯擧である。pp. 598—606 が蜘蛛類に關する解說で Plate 10は「朝霧を宿した蜘蛛の網」Plate 11 は「黃金蜘蛛の雌雄」Plate 12 は「蜘蛛の親子」。石神井